

海外留学等 成果報告集

2021



大学コンソーシアムとちぎ

・目次・

とちぎグローバル人材育成プログラムについて・・・・・・・・・・・・・・・・	1
海外留学等報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2～4
(令和元(2019)年度に留学等を実施し今年度留学を終了した学生3名)	
県内インターンシップ報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5～17
(令和元(2019)年度に留学等を実施し県内インターンシップを終了した学生5名)	

・令和元(2019)年度上級コース派遣留学生・

氏 名	留 学 先	留学期間	事前インターン シップ先	事後インターン シップ先
加納 南菜子	デンマーク	2019/8/11～ 2020/3/25	栃木県国際交流 協会	TABUWATA
奥崎 亜依里	香港	2019/9/2～ 2020/3/6	ウィメンズハウス とちぎ	そらいろコアラ
工藤 泉	台湾	2019/9/1～ 2020/3/25	とちぎユースサポーターズ ネットワーク	宇都宮まちづくり 市民工房
三根 恵里花	マレーシア	2019/9/1～ 2020/3/25	えにしトラベル	TABUWATA ファーマーズ・フォレスト
佐藤 綾香	台湾	2020/3/1～ 2020/7/31	もうひとつの家 アットホームきよはら	とちぎYMCA

とちぎグローバル人材育成プログラムについて

大学コンソーシアムとちぎでは、地域支援企業等及び栃木県の支援を受け、「とちぎグローバル人材育成プログラム」を実施しています。

このプログラムは、大学コンソーシアムとちぎ参加校に在籍する学生を対象に、グローバルな視点で物事を考え、行動し、課題を解決することが出来る人材の育成を目的として「とちぎグローバル人材育成プログラム共通科目」の開講及び海外留学・海外インターンシップ支援事業で構成されています。

海外留学・海外インターンシップ支援事業には「上級コース」と「基礎コース」があります。

「上級コース」は、官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN

日本代表プログラム～地域人材コースとして実施しています。

「基礎コース」は、海外留学・海外インターンシップの費用の一部

（渡航費、保険料、査証取得料及び荷物送付料）を支給するものです。



1. 工藤 泉

宇都宮大学国際学部 4年

留学等の機関名（国・地域名） 国立政治大学/金魚。厩邊（台湾）

期間 7か月

1. 留学等の成果を、自分自身にどのように生かしたいか。

初めは言葉も通じず落ち込む日々でしたが、勇気を出して台湾人の輪に飛び込んだことで多くの友人に出会えました。間違えても大丈夫と言ってくれた彼らのおかげで、失敗を恐れない心と言語の壁を超えたコミュニケーション力を得ることができました。また、多様な文化や価値観に触れてきたことで、多様性を受け入れる力も学ぶことができました。今後はこれらを活かし、周囲の人と良い関係性を築き、コミュニティを広げていきたいです。さらに、異なる考え方を持つ人たちを繋ぐ役割も果たしたいと考えています。

2. 留学等の成果を、地域にどのように生かしたいか。

インターンシップ先では、毎年地域住民が主体となって、地域の歴史とアートを融合させた芸術祭を行っていました。ここから学んだことは、地域の新たな魅力を作り出すには、地域資源の活用が重要であるということです。卒業後は、空き家をリフォーム、再販する会社で働く予定です。暗いイメージの空き家を明るいイメージに変えることで、地域全体の雰囲気明るくすることができると思っています。空き家という地域資源を活用することで、地域の魅力と地域に対する愛着度を高めることに貢献したいです。

日本語学科で日台の文化比較に関する発表をしました。

右から2番目。



インターン先で地域の方々とパーティーをしました。右。

2. 三根 恵里花

宇都宮大学国際学部 4年

留学等の機関名（国・地域名） サラワク大学（マレーシア）

期間 7か月

1. 留学等の成果を、自分自身にどのように生かしたいか。

留学を通して、様々な物事に対して好奇心を持って行動に移すことができるようになった。留学前はリスクを恐れてチャレンジできない性格だったが、「失敗を恐れず、とりあえず挑戦してみよう」という気持ちを持ち、自ら学びの機会を作ることで、旅行ではできないローカルな体験や宗教の理解を深めることができた。経験の幅が広いと人との交流が増えて視野を広めたり、情報感度を高めたりすることができる。留学の経験を生かし、今後も行動することで興味の対象を広げ、幅広い知見を得ていきたい。

2. 留学等の成果を、地域にどのように生かしたいか。

異なる民族同士でも互いを尊重して生活しているマレーシアでの暮らしや国籍に関係なく対等な関係づくりを目指す県内団体でのインターンシップなど、国内外で様々な経験を積んだことで多様性を知り、理解することができた。また、ダイバーシティを推進する必要性を再認識した。この経験を地域に生かすため、自分自身が国内でも多様性を受け入れる姿勢を身につけたい。そして、留学中に磨いた発信力を活用して、今後はダイバーシティに関する取り組みを県内に発信していきたいと考える。



大学で行われていたイベントのファッションショーで浴衣を着た。右。

授業で行われたフィールドワークで先住民族の伝統料理を作った
右から2番目、マイクを持っている人。



3. 奥崎 亜依里

宇都宮大学国際学部 4年

留学等の機関名（国・地域名） 香港大学（香港）

期間 6か月

1. 留学等の成果を、自分自身にどのように生かしたいか。

今回の留学で1番身についた力は、「未知の環境に飛び込む力」です。香港での留学やボランティアへの参加、交流イベントへの参加や旅行など、学問に触れている時間からプライベートの時間まで新しいことにどんどん飛び込みました。新しい環境に飛び込むことでそこから新たな出会いが生まれ、香港での留学を有意義に過ごすことができました。この成果を活かし、大学卒業後に待ち受けている新しい環境に臆することなく、未知の環境に飛び込んでいきます。

2. 留学等の成果を、地域にどのように生かしたいか。

香港大学では多種多様なジェンダーの授業を受講し、私の中にあった「性」に対しての固定概念に気付くことができました。また、子どもを持つ家庭への訪問や貧困地域で生活している子どもたちへの学習支援ボランティアを通して、家庭環境や貧困、幼児教育が子どもたちの進路に与える影響について知ることができました。この成果を活かし、地域では子ども食堂や放課後子供教室といった活動に積極的に取り組みたいです。また、SNS やイベントを通じて、栃木県の若者に対する性教育の普及に貢献したいです。



留学生とビクトリアピークに登りました。

アカペラサークルのオーディションに参加しました。
その時に一緒に歌ったメンバーと。左から3番目。



「上級コース」派遣留学生の県内インターンシップ報告

「上級コース」では地域の課題解決等に向き合いながら、グローバルな視点で考え行動する能力を身につけるとともに地域企業等は学生をインターンシップで受け入れることにより、互いに協働して活動する仕組みを構築し、人材育成と地域の活性化を実現することを目的として、留学等の前後（事前・事後）に地域企業等でのインターンシップを実施することになっています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、一部オンラインでのインターンシップとなりました。



インターンシップ先「TABUWATA」
パンフレット

TABUWATA
(たぶわた) とは？

TABUWATA (たぶわた) は、栃木県内を中心に活動する任意団体です。

TABUWATAという名称は、「多文化共生に興味あるんです、私」の略として生まれた名前です。国籍に問わず多文化共生に興味ある方々と共に、日本人も外国人も、誰もが暮らしやすい地域社会を目指して、さまざまな人が自分ごととして一緒に取り組んでほしいという想いを込めてつけられました。

これまで、国際交流や国際協力など、多くの取り組みは日本人が外国人を支援するという視点で進んできたように思います。しかし、TABUWATAでは、日本人と外国人、双方が共に取り組むことを目指します。多様な人々が互に支え合いつながりながら、TABUWATAがさまざまな役割となり、一緒に考え、一緒に活動できる地域社会の実現を目指します。

多様な人々が暮らしやすい地域をつくるため、TABUWATAの取組を通して、一つでも多くの「OOさんと呼び合える関係」が増えることを願っています。

ご入会方法

★STEP1★
申込書と自己紹介カードを事務局まで送ってください。
・電子メール
・郵便
・FAX

申込書等
様式はHPで
ダウンロード
できます

★STEP2★
会費を最寄りの金融機関からお振込みください。
【振込先口座】
定利銀行 矢板支店
普通 5514829
TABUWATA (タブワタ)

★STEP3★
領収書が届きます。
随時、イベント情報などをお送りいたします。

お問い合わせはこちら

TABUWATA
tabuwata.tochigi@gmail.com
【事務局】〒329-2142 栃木県矢板市本郷9-6-3
TEL/FAX 0287-43-6008

最新情報はウェブサイトへ
TABUWATA 検索
<https://tabuwata.wordpress.com/>

国籍に問わず、多文化共生に興味ある方々と共に、日本人も外国人も、誰もが暮らしやすい地域社会を目指して、様々な取組を行っています。

TABUWATA
多文化共生に興味あるんです、私

TABUWATA

■コーディネーション
■イベント等の企画・運営
■広報・啓発

加納 南菜子

宇都宮大学国際学部 4年

実施機関名：TABUWATA

実施期間：9月23日から

12月26日（うち17日間）



1. 活動概要

「ワールドクッキングクラブコラボ企画の考案・撮影」

多国籍な人々が集まる料理教室である World Cooking Club と、TABUWATA のコラボ企画として、TABUWATA の活動理念である「外国人の主体的な活動」に繋がる企画を考案した。企画内容は「外国人の思い出の料理紹介×講師のインタビュー×外国籍料理店紹介」を動画で作成し、インスタグラムアカウントへの投稿、web 公開を行う。企画の実行にあたり、企画内容の考案、打ち合わせ、撮影、編集を手掛けた。（編集集中のため最終的な完成・終了は2月中予定のため、この報告書には一部予定が含まれます。）

また、TABUWATA のラジオ番組に出演し、今回の企画について紹介した。



2. 成果

はじめに、企画を通じた目標を達成できたことである。

1. 外国人住民が自らのストーリーを話し、食レポを行うことで主体的に活動する。
2. 宇都宮の学生が運営するみやメシ応援隊とコラボすることで、外国人と大学・学生、外国籍料理店を繋ぐとともに、多文化共生に興味がない人にも宇都宮の多様性を知ってもらうきっかけを作る

の2点を目的として企画を行った。活動に関わった3団体に以下の成果が挙げられる。

▶ワールドクッキングクラブ：

- ・コロナ前に行っていた料理教室を自宅ででき、会員の活動が再開できた
- ・TABUWATAのHP、宮メシのInstagramを借りて、動画、活動の紹介ができ、新規会員の獲得機会に繋がった

▶TABUWATA：

- ・外国人住民がストーリーを話すことで、外国人住民が主体となって活動できる場を作った

▶みやメシ隊：

- ・宇都宮の飲食店を紹介できた

▶全体

- ・飲食店を経営する外国人と講師の外国人、TABUWATAメンバーなど参加者を新たに繋ぐことができた。

続いて、TABUWATAの活動理念を知り、体感できたことが成果である。TABUWATAの活動理念は「国籍に関係なく多文化共生に興味のある方々と共に、日本人も外国人も一緒に、同じ立場で、色々な取り組みを行う。これから何か企画したいと思っている人たちと、役に立ちたいと思っている人々とを繋いだり、助言やサポートをする」ことである。企画考案時には難しいと感じたが、デンマーク留学時の経験を生かした企画を考えることができた。

3. 今後に向けて

4月からは東京での就職となるため栃木県で直接的に活動することは難しいが、個人的にも、ボランティアのような活動としても地域の外国人と同じ立場で交流できる場に参加し自らの多様性への理解を深めるとともに、地域の多文化交流にも貢献していきたい。

ラジオ出演の様子



工藤 泉

宇都宮大学国際学部 4年

実施機関名：特定非営利活動法人宇都宮まちづくり市民工房

実施期間：9月30日から1月21日（うち15日間）



1. 活動概要

これまでの事前インターンシップと留学を通して、地域活性化に関わることを主軸として様々な体験をし、日本と台湾双方のまちづくりを間近で見て学ぶことができた。そこで帰国後の今回、再度日本のまちづくりに関わる団体でインターンシップを行い、より深く学びたいと考えた。特に、今回インターンシップをさせていただいた宇都宮まちづくり市民工房は、中間支援組織として NPO 支援を中心とした活動を行っており、新たな視野を得ることができると考え、参加した。

本インターンシップはコロナ禍の状況を踏まえ、前半がオンライン、後半が対面で行われた。具体的な活動内容として、前半は助成金申請の補助や復興支援に関する学校教育の検討などを行い、後半は山道整備や NPO 団体への聞き取り、自治会講習、まちあるき講習などへ参加した。全体を通して、NPO 支援から教育まで、事務的な業務からアクティブな業務までと、幅広く体験させていただくことができた。

2. 成果

これらを通して学んだ点が以下の二点である。一点目に、中間支援組織の役割の重要性である。これまで私が関与し、想像していたまちづくり団体は、直接的に地域課題の解決に取り組むものだった。しかし、今回のインターンシップを通して、市民工房のような中間支援組織がそれらの団体を支援し協働することによって、彼らの活動がより活きるということを知ることができた。さらに、実際にその一端を経験することができ、中間支援の重要性と難しさを感じられた。

また、その難しさとして、課題を持っていてもそれを相談してくる団体は少なく、こちらから聞き出す必要があるというお話を伺った。担当してくださった土崎さんの、信頼を得るためには6回伺って7回目で本音を聞き出し、お願いをするという言葉が印象に残っている。時間をかけて良い関係性を作り、その上で相手の要望を引き出すということは、今後社会人になっても常に必要なスキルであると感じた。

二点目に、連携の重要性である。市民工房では県内外の多くの繋がりを持っており、今回様々な NPO や地域企業と関わりを持ち、お話を伺うことができた。地域資源を活かしたまちづくりや地域の人助けなど活動は様々であったが、それぞれ地域をより良くしたいという同じ思いを持っていた。宇都宮まちづくり市民工房のような中間支援組織が中心となって、それら団体が連携することで、より良い地域づくりに繋がるのではないかと感じた。



青空プロジェクトTHE DAY
マウンテンバイク体験

那須塩原の山道整備に同行



3. 今後に向けて

最後に、ここで得た学びを活かして、今後はコミュニケーション能力の一つとして、相手から引き出す力を身に着けたいと考えている。そのために、ゆっくりと時間をかけて関係性を築くことを大切にしていきたい。卒業後は、空き家をリフォーム・再販する会社で働く予定である。暗い印象のある空き家を明るい印象に変えること地域の魅力を高め、安価で魅力のある中古住宅を作ること人を呼び込むことで、地域の活性化に貢献したいと考えている。その中でも、今回のインターンシップで学んだ相手の意見を引き出す力を活かして働きたい。

また、仕事以外でも、ボランティアなどを通して地域と関わる機会を持つことで、卒業後もまちづくりに関わり続けたいと考えている。その際には、人との繋がりを大切に、周囲と連携してより良い地域づくりを行うことを心掛けていきたい。

三根 恵里花

宇都宮大学国際学部 4年

実施機関名：TABUWATA

実施期間：9月23日から12月17日（うち10日間）

1. 活動概要

栃木県内を中心に活動する任意団体である TABUWATA(たぶわた)でインターンシップを行った。TABUWATA は「多文化共生に興味あるんです、私」の略で、日本人と外国人、双方が共に取り組むことを目指し、多様な人々が対等な関係をつくっていける地域社会の実現を目指している。2021年3月に結成され、宇都宮市市民活動助成金のスタート支援コースに採択を受け、活動を行っている。主な活動として、①コーディネーション、②イベント等の企画・運営、③広報・啓発を行っており、今回のインターンシップでは②に携わった。

インターンシップの内容はインターン生2人のアイデアをもとに企画を立ち上げることであった。今回はワールドクッキングという団体とのコラボ企画であったため、「料理」をテーマに、多文化共生に関心のない方の興味を引くような企画を考えた。

企画の立ち上げまでに ZOOM を通して打ち合わせを数回した。第1回目の打ち合わせは自己紹介、インターンシップ先の概要説明、インターンシップでの取り組み内容の説明を行った。第2回目は各学生が企画を考え、パワーポイントにアイデアをまとめて発表した。この打ち合わせからインターン担当者は補助的な役割としてサポート役に回り、学生とワールドクッキングの担当者を主体に議論が進められた。私は「外国人住民が主体となって活動する場面が少ない」という課題に対して5つのアイデアを考え、企画案を発表し、ワールドクッキング・TABUWATA それぞれの担当者から講評をいただいた。その後、全体での打ち合わせを通して各学生の案を組み合わせ、企画の土台を作った。企画の詳細はインターン生2人で詰めた。話し合いを重ねた結果、企画内容はワールドクッキングにゆかりがある栃木県在住の外国人2人による母国の料理レシピ紹介とインタビューの2本立てに決定した。11月に台湾料理「大根餅」をテーマに1回目の撮影を行い、この撮影の反省点を踏まえ、12月にブラジル料理「ポンデケーキ」をテーマに2回目の撮影を行った。企画運営中は主に撮影とレシピのメモ書きをする担当を担った。



コラボ企画のアイデア出し（一部）



インタビューの様子

2. 成果

成果は主に2つある。

1つ目は、企画・運営に求められるスキルを養えたことである。今回のインターンシップでは企画を中心に携わったため、特に情報収集力や課題解決能力などを磨くことができた。企画概要は「多文化共生×料理」がテーマであり、オンラインでコンテンツを発信することであった。この概要だけを聞いた当初はオンライン中継でレシピをすることが真っ先に思いついたが、このアイデアでは新規性やオリジナル性に欠けていた。新しいものを創造することが苦手であったが、自分が得意とするリサーチ力を活かして他県の事例を参考に企画案を考えたり、既存のものを組み合わせて新しいものに作り替えたりしたことで5つのアイデアを出すことができた。

課題解決能力に関しては私が苦手とする能力の1つであったが、全体打ち合わせやインターン生と企画内容を深める議論を通じて、現状の課題を整理して、どのような方法で課題を克服するのかについて、意見交換をしながら企画案をまとめるという一連の流れを実践的に学ぶことができた。また、全体打ち合わせで企画のたたき台を作る工程の中で、各団体の担当者の客観的な視点によるアドバイスは、各学生のアイデアを組み合わせたり、アレンジを加えたりさせ、さらに新しいアイデアの創造へとつながった。これらの経験を通して自分が持ち合わせていなかったスキルを学び、養うことができた。

2つ目は、地域社会における多文化共生について考えるきっかけができたことである。栃木県には労働や勉強など様々な理由で母国からやってきた人が多数おり、日常生活の中で外国人の存在があることを認識していたが、どんな課題を抱えているのか、どの程度日本社会になじめているのかなど、深く考える機会が少なかった。しかし、今回のインターンシップを通じて、栃木県における外国人住民の実態や外国人住民がどんな思いで栃木県に在住しているのか知ることができた。

撮影に協力してくれた外国人の方は気さくで、陽気で、日本語が上手な方々であった。撮影中に自国の方式でおもてなしをしてくれたり、踊りながら料理を作ったりして、料理を通じて文化の違いを感じ、多文化を実践的に経験することの楽しさを知った。しかし、インタビューの時に来日当時の困難について尋ねた際、言語の不自由によるコミュニケーションの難しさや外国人に対する偏見があったと述べていた。企画立案時にも各団体の担当者が外国人の現状について言及した際、言語が不自由なため日本人とコミュニケーションを取りたくてもできない外国人が存在すると述べた。また、ワールドクッキングが主催の料理・文化紹介教室を開催する際に栃木県に住む外国人の方に講師をお願いしたくても、言語の壁により挑戦できない外国人がいるのではないかという意見があった。ダイバーシティに携わる日本人や実際に困難を経験した外国人の方々に話を聞くことで、自分の身の回りに困っている外国人がいる事実を知ることができた。

本団体でインターンシップを希望した理由は、多民族国家であるマレーシア留学を通して、ダイバーシティへの関心が強まったからである。日本では外国人労働者の受け入れに前向きな企業がある一方で、自治体や個人レベルで国籍、文化、価値観の違いを受け入れきれていないのが現実である。グローバル化が大都市だけではなく、ローカルの中でも広がっている今、日本人と外国人がともに活躍できる場所を作ったり、お互いが支えあったりすることで多様性を地域づくりに活かすことが求められるだろう。ダイバーシティを推進するためには企業などの組織の意識改革なども重要だが、個人レベルでの推進も大切であると考え。そのために、日本人には個人が多様性を意識し、受け入れる姿勢を身につけるための取組を強化したり、外国人には日本の習慣を理解するための取組を進めたりすることでお

互いに尊重し、支えあう意識を醸成できるのではないかと。本インターンシップを通して、栃木県のダイバーシティに関して上記のようなことを考えるきっかけになったことは大きな成果となった。

三根 恵里花

実施機関名：ファーマーズ・フォレスト

実施期間：11月25日・26日

12月5日・12日（4日間）

1. 活動概要

栃木県宇都宮市にある株式会社ファーマーズ・フォレストでインターンシップを行った。

道の駅ろまんちっく村の運営をはじめ、交流資源を通じ、次世代のアグリカルチャーとエコツーリズムを目指した「ものづくり」「ひとづくり」「まちづくり」に挑戦し、全国の各地域と連携共同しながら、活力ある「ローカルブランド」の総合的なプロデュースを目指しており、6つの事業を展開している。今回は地域商社事業に携わった。

地域商社事業とは、自社運営の各店舗やWEBや各メディアを通して、地域ブランドの創造と発信を展開、さらには、産地間中規模流通の確立などを通して、日本の新たなローカル経済圏ネットワーク形成の取り組みに挑戦している。今回インターンシップを担当して下さった方は、企業全体のサポートをしており、特に行政事業や外部とのネットワークの強化において活動していることが多く、地域商社としての「つなぐ」という部分を担っていた。その担当者のもと、①農産物や地域特産品等の総合流通事業展開、②産地間中規模流通、③直営店舗や地域アンテナショップ等の経営に携わった。

具体的なインターンシップの活動について、①では(i)新商品の開発を目指す事業者の支援を県から委託し、専門家を交えて企画をコーディネートする打ち合わせの見学、(ii)ファーマーズ・フォレストがトータルコーディネートするいちご農園のWeb制作等の手伝いをした。



ねぎクジ（担当ブース）



②では、オンラインで行われた中山間地域人材養成に関する講座の補佐をした。

③では、道の駅で行われた新里（にっさと）ねぎと篠井のキノコ祭りの補助スタッフとしてクジのブースを担当した。

WEB制作用の動画撮影（いちご農園）

2. 成果

成果は主に2つある。

1つ目は、栃木県における地域商社としての役割を知れたことである。付加価値商品の開発やWEBを通じた地域ブランドの発信に興味があり、地域商社でのインターンシップを希望した。言葉では「様々なネットワークを持ち合わせ、地域内外をつなぐ役割を担っている」ことを理解していても、具体的な事業内容が掴めずにいた。しかし、業務経験を通じて、地域商社の役割である「地域に付加価値をもたらすため、地域資源をした商品開発やマーケティングなどに取り組み、地域の生産者を取りまとめてプロデュースする機能」があることを知ることができた。

印象的だった業務は、トータルコーディネートをするいちご農園の生産者とのやり取りである。地域への付加価値や生産者の所得向上をもたらすことが第一の考えではあるが、企業である以上、収益性も高めることも求められる。しかし、行政と生産者をつなぐ役割を担った際、生産者の諸事情によりファーマーズ・フォレストの収益があげられないことが問題とされた。この問題に対し、生産者の対応を無理に変更させて一時的な自社の収益を望むのではなく、ビジネスパートナーとしてより良好な信頼関係を築き将来的には強固な関係となる貸しを返し案件に合意していた。この経験から、目先の成果ばかりを追い求めるのではなく、長期的な視点で仕事に取り組むという考え方を学んだ。また、新里ねぎと篠井のキノコ祭りを通して、地域商社の役割が「市場に近い存在であるとともに、生産者に近い存在であり、両者の懸け橋となりえる存在」であることを実感した。お祭りのスタッフとしてねぎクジのスタッフを担当した際、一般のお客様とお話する機会が多くあった。自身が市場に出て会話することで消費者のニーズを把握したり、地域を活性化するための多角的な視野を持ったりすることにつながるため、大切な役割であることを認識した。

2つ目は関わるあらゆる人に対するホスピタリティと働く姿勢について学び取れたことである。担当してくださった方は多くの案件を同時に進めており、1日に複数個所に訪問したり、多く問い合わせ連絡がきたりしていた。多忙な業務をそのように進めているのか尋ねた際、完璧な資料作りを目指すのではなく、たたき台を先に作り、打ち合わせをする中で一緒にタスクを完成させることで仕事を効率化していると回答された。私は資料を作成する際、完成度にこだわってしまうタイプなため、見習うべき点であると痛感した。

また、新商品の開発に関する打ち合わせを見学した際、ヒアリングを通して個人事業主の特徴を捉え、相性の良い専門家を派遣したり、両者の間に入ってわかりやすい説明をしながら論を進めて行ったりする姿が印象的であった。顧客の信頼と安心を生み出すために早いレスポンスを心掛けたり、新しいアイデアの提案や現状をよくするための助言をしたり、相手が満足することや期待すること以上のサービスを提供していることを知り、社会人としての心構えを学ぶことができた。加えて、電話やメールでいただいたお問い合わせについて話を伺う際は、話し合いをより円滑化させるために、まずは対面で会い、相手の顔を見て状況を知ることだと思いがない情報や依頼を得ることができるので意識しているという点も印象的であった。このように、顧客を思いやった行動が信頼につながり、一緒に働きたいと思ってもらえる人材になれることについて、実践的に学ぶことができた。このホスピタリティや働く姿勢はどんな産業に就職をしても活用できるので、今後は意識して習得できるようにしたいと思う。

佐藤 綾香

宇都宮大学国際学部 4年

実施機関名：とちぎYMCA

実施期間：2月16日から3月16日（うち17日間）



1. 活動概要

- ① 高校生が子どもの貧困支援を考えて実行するプロジェクトに参加し、台湾の子どもの貧困支援のノウハウを伝えた。
- ② 子どもの支援に携わるリーダー会に参加をして、台湾での学びを活かし、プログラムの提案や子ども食堂の立ち上げに携わった。
- ③ 子どもたちとオンラインで繋がり、子どもの興味を育むプログラムや学校では既に身についているとみなし、家庭に依存している部分を補うプログラムを実行した。

2. 成果

- ① 高校生に台湾の子どもの貧困支援のノウハウを伝えたところ、現状の配給をする支援など子どもは受け身の支援を受けるだけでなく、子どもたちに「生きる力を身につけさせてあげられるような支援方法」を考えようという方向性になり、高校生の子どもの貧困支援に対する視野を広げる一助を担うことができた。
- ② 年間のプログラムを考える会議に参加し、台湾で学んだ子どもがスキルを身につけられるプログラムを提案し、野外炊飯やものづくりを体験できるプログラムを提案することができ、実施されることになった。
- ③ 本の読み聞かせを通して、子どもたちに学校では触れられない知識などを身につけることができる場づくりや子どもの興味を見つけるお手伝いをして、子どもたちの興味を育むことができた。また、この取り組みを通して、子どもたちが演じたい空間づくりに繋げ、演じることを通して、留学先の団体でも行われていた子どもたちの理解力、表現力、発表力を培う場づくりへと発展させることができた。

3. 今後に向けて

子どもの生きる力を育むプログラムづくりや子ども食堂の立ち上げなど子どもの貧困支援活動により一層深く携わりたい。そして、留学経験から得た、「企業と同一の目標に向かって連携しながら質の高い教育活動と住み続けられるまちづくりを展開することで貧困問題の解決に繋がること」などの学びを活かして、そのノウハウをより多くの方に伝えて日本における貧困の子どもの支援の充実に貢献していきたい。

奥崎 亜依里

宇都宮大学国際学部 4年

実施機関名：そらいろコアラ

実施期間：10月29日から12月9日（うち5日間）

10～20代をターゲットに、SNSメディア（主にInstagram）を使用した性教育コンテンツの企画・作成を行うため、そらいろコアラの活動紹介やインターン体験を行い、インターン生の呼び込みを行いました。

インターンシップ体験会では10名以上の参加者が来てくださいました。主に高校生、大学生の若い層が体験会に参加してくださり、性教育に興味を持つ若者が積極的に活動に参加してくる姿を目の当たりにすることができました。体験会では実際に性教育コンテンツを企画・作成してみようというテーマで行いましたが、妊娠についての悩みやピル、避妊に関する悩み、性的同意など参加者の興味がある問題について知ることができました。また、SNSに慣れ親しんでいる年代だからこそ、発信方法にも様々なアイデアが生まれ、若者と性教育の可能性を見出すことができました。最終的に2名の方が正式なインターン生として参加してくださり、現在はコンテンツを作成しInstagramに投稿しております。

今回のインターンシップを通して、栃木県や日本全国の若者が抱える性に関する課題を深く知ることができました。卒業後もそらいろコアラ様の活動に参加していく予定なので、これからも性教育を広める活動に携わっていきたいと思います。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS